

●今月の法語カレンダー●
驕りは 人間を滅ぼし
争いは 世界を滅ぼす
西原 恵照

「驕り」を仏教では「驕慢」といい、「おごりたかぶる心。根本煩惱の一。」を指します。自分にはえらい正しいという思いからは、争いしか生まれません。日常の小さなケンカも、国同士の大きな戦争も、すべて人間のこの愚かさから生まれます。今の世の中で、お釈迦さまのことばが大切なところを教えてください。「世の人たちが私と争うようなことがあっても、私は人びとと争うこととはない」胸に留めておきたいですね。

三月の行事

- 朝の日曜礼拝 毎週日曜朝七時
- 春季彼岸会 二十一日(火)午後一時半 講師 ケネス・タナカ師 (武蔵野大学教授)
- 婦人の集い 九日(木)午後一時半 「お経教室」と一緒にどうぞ♪
- お経練習会 二十五日(土)午後三時

●仏教婦人会研修会

- 一日(水)築地本願寺 講師 藤井邦彦師(大分県)
- 九時半松戸駅改札前の売店で待ち合わせです。
- ヨーガ教室 八日・二十二日(水) 各午後十二時半
- 仏教講座会 二十日(木)
- 婦人の集い 十日(月)

四月の行事

春のお彼岸法要

参拝のご案内

【日時】
三月二十一日(火)
春分の日
午後一時半～三時半

【講師】
ケネス・タナカ師
(武蔵野大学教授)

【予定】

法要(お参り)
ご法話
茶話会
(皆さんでお茶を飲みながらのお話。ぜひお立ち寄り下さい。)



お彼岸は、日本オリジナルの仏事です。真西に沈む輝く夕日を見て、昔の人たちは浄土を思い浮かべたのでしょうか。
あたたかくなる頃です。どうぞご家族そろってお参り下さい。

講師略歴

ケネス・タナカ (Kenneth Tanaka)
1947年山口県生まれ。日系二世の両親と1958年渡米。スタンフォード大学卒(文化人類学BA)。米国仏教大学院修士課程修了、Berkeley, California (仏教学 M.A.)。東京大学大学院修士課程修了(印度哲学 修士)。東京大学大学院博士課程退学。カリフォルニア大学(バークレー校)大学院博士課程終了。哲学博士(仏教学 Ph.D.)。北カリフォルニア仏教連合会長。国際仏教キリスト教神学対話会評議員。1984年 Graduate Theological Union, Berkeley, California 准教授。1988年武蔵野大学教授、現在に至る。

仏教情報センターのご案内

「仏教情報センター」とは、伝統九宗派のお坊さんによる『仏教テレフォン相談』です。



- 【担当】
月曜日：臨済宗・曹洞宗
火曜日：浄土真宗 本願寺派・大谷派
水曜日：日蓮宗
木曜日：浄土宗
金曜日：天台宗・真言宗 (複数宗派は各週ごと)

【相談時間】
平日 午前十時～十二時
午後一時～四時

【電話番号】
〇三～三八一一～七四七〇

私も昨年末から相談員としてお手伝いをしております。お電話を受けますと、そこにはさまざまなご質問があります。

例えば、
・法事の時にどのような服装で行けばよいか
・近隣住民とうまくいかない仕事は嫌いだではないが、続けられない
・浄土真宗の信心とは何ですか
・お手次ぎ寺の住職とうまくいかない
・お坊さんになりたい などなど。

仏教から生活の話まで一日五十件ほどのお悩みが寄せられます。
先輩のお坊さんが、「テレフォン相談は人生の縮図だ」とおっしゃっておりますが、そこに現代抱えている苦悩を垣間見ることが出来ます。昔は「地震・雷・火事・おやじ」と言われるように、社会の目があり、親戚や近所のおじさんに叱られるながら成長していきました。しかし、現代はその「怒鳴り声」を失いつつあります。代わりに人生の先輩か

活動報告

ら学ぶこともなくなつたという現実があるのではないでしょうか。
私自身、さまざまなご相談をお受けいたしますが、人生の先輩方の相談などは正直私の経験では何もお答えできないことが多く、ただお話を聞きしていると、いろいろが実状であります。しかし、ご相談を聞くことを通して様々なことを勉強させていただいている日々であります。
(若住職 龍哉)

★お彼岸法要の講師、ケネス・タナカ先生の著書『真宗入門』をお寺で販売しております。(著者割引限定二十冊・一六〇〇円)
この機会にお読みになってみませんか。

ケネス先生には、天真寺長女静香・長男龍哉も大変

お世話になつています。アメリカンジョークが大得意な楽しい先生です。どうぞお話を楽しみにお参り下さいね。
★二月の婦人部では、テッシュケースを作りました。それぞれが可愛らしい出来映えに大満足で、楽しい時間となりました。
★「仏教講座会」には、雨のなか、ようこそお参り下さいました。茶話会では、あったかい甘酒を皆さんとおいしくいただきました。

★お経練習会は、今月よりいよいよ「お正信偈」がスタートしました!

★三月一日の築地本願寺の仏婦一日研修会のテーマは、「仏婦活動ってなに。」と、仏婦を楽しもう!です。ぜひ一緒に参り下さい。希望者はお寺まで。

ご門徒の鈴木いとゑさん（松戸市小金）が婦人部の新年会でお話下さり、ぜひ皆さんにもと寄稿をお願い致しました。

「いまわしき戦争怨む」

成人式に出席するため、新しいスーツを着て出掛ける、孫の後姿を見送り、これが平和なのだなどと、一人ごとを言いながら、昔のいやな戦争を思い出した。

何もかも戦争一色で、不自由な時代。空に、海に、陸に、前途ある若者、家族のある人、男なら、みな兵隊に採られ、多くの人が犠牲となつて、散つて逝つた。

悲惨な時代に、私の弟も数え年で、十七歳の可愛い少年であつたが、海軍に志

は、呉の海軍病院であつた。びつくりした。よくも命があつたものだと思つた。とこんな話をしてくれた。

休みが終わりに舞鶴に戻つていった。それから何の便りもない。

ある秋の取り入れのすんだ夕方、家族で、ぼそぼそと夕食をしているところに軍隊から電報が届いた。すぐ内容を見ると、明日の午後面会頼むとの知らせであつた。父は、いよいよ来るときがきたなあと一言、淋しそうに言った。みな、しんとしてしまつた。とにかく気を取り直して、留守をたのみ、明日の面会に行く仕度をして、朝、暗いうちに起きて、バスと電車、汽車にゆられ一路舞鶴へと出向いた。



願して軍隊に入った。

戦争が激しくなり、国内でもあらゆる物資が欠乏してひどかつた頃、私は赤字の看護婦であつたため、召集をうけて、東京の世田谷の第二陸軍病院に居た。

来る日も来る日も東京は大空襲の日々であつた。



私の兄は二回目の召集兵で出征して家を出て行つたきり、どこに行つていつかかわからず、一切秘密の時代で、世の親や家族はみな心配な事だつたらうと思ひます。

私の実家は福井県の片田舎で老いた親達と末の妹と百姓して居た。其のころの

着くとすぐに、昨日の電報を守衛に見せると、すぐ宿に案内してくれた。二人は宿で待つていて、弟がコツコツと足音をたてて入つてきた。うれしかったが、顔を見ると、暗い顔で面会時間はいらないよと言つた。いろいろの準備があるからと言つて、父子はお互いに抱き合つた。「これが今生の見納めかと思うと、しきりに涙が出た。僅かな時間なので、思つていることの半分も言えず、別れる時が迫つた。弟は父や妹に對して、何も言うことはないが、くれぐれも身体を大切にしてください。おれは、靖国神社に祭られるから心配しないでくれと言つたら、さすが、父親は信仰心の厚い人なので、お前馬鹿なことを言わないでくれ、靖国神社なんてものは、人間がこしらえたものだ。そんなものは、絶対にあてにならないぞと厳しく言つて、お前、お念仏だよ、お念仏に

農家も大変だつたそうです。

「妹の話であるが、海軍に行つていた弟が、めずらしく二日ばかり休暇をもらつて帰つてきた。久しぶりに顔を見るので、みな喜んで、弟の苦労話を聞いた。其の時弟は、今度出たら生きて帰れないかも知れないと、一言もらしたそうです。

其のあと、寒い北のアリユンシャン列島の、アツツ島玉砕のあと、残つている日本兵を、軍の命令で、海軍が引揚にいくことになつた。命がけの仕事であることとはわかつてはいるが、命令となれば仕方がない。夜中に敵機の様子を見ながら出航。やつとの思いで目的の港に着いて、上陸して見ると、多くの兵は負傷して居る者が多く、歩ける者は僅か、少数しかつれてこられなく、殆ど島に残つてきた。助けてくれ、助けてくれと泣き叫んだが、自分達

勝るものはない。又お念仏だよと三回繰り返した。弟は、親父、わかつた、お念仏だねえと強く言つて聞いていた。父は涙を浮かべて一生懸命だつた。傍にいた妹も泣けてしまつた。」

父子の姿が今も目の奥に残つて居る。明日は出発すると言ふ、弟の後姿を見送り泣けてしまつた。

あとから聞いた話であるが、潜水艦に乗り人間魚雷となり、体当たりして台湾沖で散つたとの話しと公報があり、家にきたものは白木の箱で、何もなく、中は戦死の公報と書いた紙だけであつた。

残つた家族は、ほんとうに悲しくてむなしただけの一言です。

「南無阿弥陀仏」ただ戦争を怨むばかりです。

私の弟は、林叡きよと言う名前です。

も命がけである。暗いうちに船を出したが、敵の攻撃が激しく、沖に出ると間もなく、船はやられた。

見る見るうちに船は沈んで、乗っている者はみな海に投げ出され、又は飛び込んだ者も、殆ど死んでしまつた。自分も海に飛び込んだが、気が付いたら広い海に浮いていた。おそろしかつた。死を覚悟していたが、生きていると思うと、又命がおかしい。心細いほど言葉にならない。もう一人の同僚も不思議に浮いていた。板切れにつかまつて、助けたくれと叫んだが、広い海原でのこと、又オーイ、オーイと叫んだ。二晩位海に浮いていた。

其の時、我が軍の船が助けに来てくれた。仏様のように思つた。船に救助されたのは分かつてはいるが、あとは覚えていない。寝むつたきりで、気が付いたとき

門信徒会入会のご案内

門信徒会では、毎月「寺報」と仏教冊子「御堂さん」を送付しております。

お寺通いが難しい方も、ぜひお家でお読みになつて下さい。

また、毎月の仏教講座会・婦人会活動・お経教室・ボランティアなど、さまざまな活動をしております。

ぜひお仲間になリませんか。

入会者募集中です。

(年会費 三千元)

天真寺の行事は、すべて自由にご参加いただけます。初めての方もどうぞお気軽にお寺にいらして下さい。お待ちしております。